



JREU TOKYO

業務部速報



2024.12.31 No.033

発行：JR東労組東京地本 業務部

安全研修（福知山）に行ってきました！



事故が起こる以前からJR西日本は「営利優先・安全軽視・運行第一」と言われ、「ミスすると日勤教育」が常態化していた。

この事故は運転士を含めた107名の尊い命が一瞬にして奪われ560名を超える多くのお客さまが負傷する大惨事であった。

なぜ事故は起きてしまったのか。背景にあるのはこの「日勤教育」ではないかと言われている。当該電車の運転士は事故発生直前に停止位置不良を数駅で起こしていた。恐らくその遅れを回復するために上限速度を上回り事故を発生させたのではないかとされている。ミスをするとは日勤教育…。人間労働である以上ミスはつきものだ。しかし当時のJR西日本会社ではそれが通用しない。ミス=ペナルティの対象となり、日勤教育という名のもとで「草むしり」

や「さらし者」にされる。だから乗務員として最も大事なお客さまの命を預かることよりも事象の隠蔽、誤魔化しに意識が働くのだそうだ。責任追及ではなく原因究明。これが国鉄改革以降、JR東労組が会社と共に創り上げてきた安全の文化だ。この安全文化は持続的に継続しなければならないし、会社が変わらないよう労働組合としてもチェック機能を果たさないといけない。労働組合の使命だ。

現地を訪れると受付で記帳をするがその際に守衛から「同業他社ですか？」と質問。どうやらJR西日本会社に批判的な関係者と分かる監視が付くことがあるらしい……。その監視に何の意味があるのかと違和感を覚えた。

JR西日本会社は「福知山線列車事故」と表記。
「脱線」の文字がない(理由は不明)



JR 東日本も運行優先・安全軽視になっていませんか？

「安全は経営のトッププライオリティ」をお題目にせず

企業のチェック機能である労働組合の存在意義を

JR 東労組の組織拡大で示していきたいと思います！